

宇宙生命哲学

ことはじめ

80

北里環境科学センター
名誉顧問／宇宙生命哲学者

伊藤 俊洋

新しい内閣総理大臣に期待するもの

本年は、昭和100年、量子力学誕生100年、戦後80年という節目の年である。自民党と公明党の連立政権は、衆参両院で過半数割れとなり、少数与党として苦しい政局運営を強いられている。現在の政局の流れでは、この難局の中で選ばれた自民党の新総裁・高市早苗氏は、国会の首班指名で、我が国で初の女性内閣総理大臣(第104代)に指名される見込みである。新しい首相には、何を期待したら良いのだろうか。

我が国は、戦後80年の間、平和憲法のもとに、ひとすべら平和国家建設のために励んできた。第二次世界大戦の敗戦後、多発する自然災害や、近年の地球温暖化(沸騰)化による異常気象などに加え、世界的なオイルショックを始めとする様々な要因による経

済の浮沈を経験しながら、多くの国民はその苦難に昂然と耐えてきた。その結果、我が国は、戦後80年を平穏に送ることができ、世界各国から平和国家として高く評価されている。

一方、地球上では、絶え間なく戦争や紛争が続き、その根本的な解決策も見通せていない。自国だけの繁栄を目指しては、将来にわたって安心して生きる平穏な世界を作ることができない。これからのリーダーは、俯瞰的に世界情勢を把握し、世界平和の実現を念頭に置き、世界が進むべき方向に対して、明確なメッセージを発しなければならぬ。当然、我が国の総理大臣にも、その資質と構想力が要求されている。

世界は今、ポジュリズムの渦に飲み込まれ、自国第一主義が大手を振って歩いている。個人についても、利己的な願望を素直に主張することがクールと思われる風潮があり、成熟した文明を支える利他の精神は、傍に追いやられている。

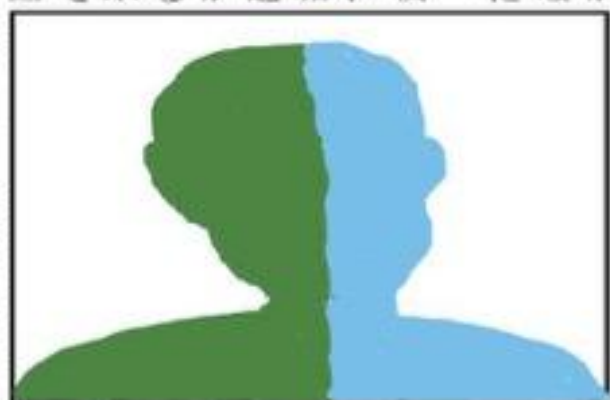
人類の文明は、人の心と身体が科学・技術の進歩

に追いつかず、大きな曲がり角にきている。

そして、戦後80年という長い平和な時代を過ごした我が国は、ある種の平和ボケに陥っている。自国

第一主義を掲げるリーダーを選ばない国民が多ければ、世界の平和の実現は難しいだろう。世界各地の紛争や戦争が一日も早く終結するように、我が国のリーダーには、「宇宙船地球号」を「平和な宇宙船地球号」にレベルアップするよう、世界に向けて働きかけて戴きたい。

準備不足のまま始まったAIやSNSに対して、早急に万全の対策を講じ、国民が安全に、安心して暮らせるような政策も望まれる。



素散な地球人